

障害者就労意見交わす

市長のタウン3団体が参加

函館市内で活動する各種「キング」が15日、市役所団体と工藤寿樹市長との意見交換会「市長のタウン3団体が参加し、課題や要



障害者の就労などについて工藤市長（左から2番目）と意見交換するシゴトシンク北海道の役員

望について話し合った。

障害者の就労移行支援を行う事業所を運営するNPO法人「シゴトシンク北海道」（五稜郭町7、清野侑亮理事長）は、「障害者の就労を福祉の問題として考えるだけでは、市の労働や経済が良くなるらない。社会全体の問題ととらえ、働きやすい環境づくりを進めなければならぬ」と指摘した。

同法人は障害者や生活困窮者を対象に、求職活動に必要なマナーを教えたり、実際に働く場を提供したりしている。ただ、同法人のみではさまざまな企業からの仕事に応じることができないことから、仕事の振り分けを札幌市から委託を受

けて実施している「元氣ジョブ」の取り組みを紹介。

同事業は委託業者の営業マンが他企業から仕事を受注し、作業の内容を考慮した上で、事業所ごとに仕事を振り分ける。官民から仕事を受注しており、「重度の障害がある人でも作業可能なさまざまな仕事が発掘できた」と実績を説明し、「このようなしくみがあれば、函館市内の他事業所にも仕事を振れるのでは」と提案。工藤市長は「障害者の就労については、行政だけでなく他事業所との話し合いと企業の理解を得ながら進めていければと思っている」と応じた。

また、道南いのちと心を考える市民ネット・あかり（竹花郁子代表）は自殺した人の遺族、遺児の支援強化、市女性会議（佐々木香会長）は、市の男女共同参画審議会に委員として参加することなどをそれぞれ要望した。

（蝦名達也）